

# 《2003年11月例会報告》

■期 日：2003年12月2日（火）19：00～21：00

■会 場：筑波大学附属高校体育館1Fミーティングルーム（東京都文京区大塚1-9-1）

## ■参加者

【サロン会員】川前真一（(有)スリーライン） 座間健司（フットサルマガジンピヴォ！編集部）  
澤井和彦（東京大学） 竹中茂雄（NextCommunity@キャプテン） 徳田仁（(株)セリエ） 中塚  
義実（筑波大学附属高校／東京都フットサル委員） 本多克己（(株)クラブハウス） 宮崎雄  
司（サッカーマニア編集長）

【未会員】小笹祐介（早稲田大学4年／ZOTT所属） 梶野政志（日本フットサル連盟／東京都フ  
ットサル委員長） 三枝茂雄（東京都フットサル委員会） 日向峻介（慶應義塾大学法学部3年）

【報告書作成者】竹中茂雄（NextCommunity@キャプテン）

注）参加者は、所属や肩書きを離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

## ■テーマ

\*\*\*\*\*

## フットサル界の現状と課題

本多克己((株)クラブハウス)

\*\*\*\*\*

### <プレゼンテーション>

#### ●はじめに

「あやや・モー娘もフットサル！！」。いま、いろんな意味で、フットサルの注目度が高まっている。

前回のサロンは「登録」というテーマだったが、その中でも「なぜ登録が必要なのか？」「登録の仕組みはどうあるべきか？」さらには「サッカー協会がなぜ必要だったのか？」ということがテーマとなった。今のフットサルはそれらを考えていく上でもよい題材となる。

協会の役割とは、非競技の球蹴りからルール制定、競技性の高まりから、競技会の規模の拡大によってでてくるのだと思う。梶野氏中心に日本フットサル連盟が形づくられてきてはいるが、全国的にみて十分な組織とはいえない。

日本のフットサルに関しては、協会の動きが活発化する前に民間の企業が事業としてやっているという経緯がある。その環境の中で、連盟・協会がどう関わっていくのが課題となっている。

#### ●日本フットサルのレベルについて<sup>2)</sup>

来年は、フットサルのワールドカップイヤー。FIFA主催で、11月にチャイニーズ台北で開催される。アジア予選（AFC主催）は、マカオで4月から開催される。

日本は、アジアフットサル選手権で3大会連続で4位のあと、2大会連続準優勝<sup>3)</sup>。2003年に  
行われた第5回アジアフットサル選手権決勝で、日本はイランに4-6と善戦した。アジアの中  
でイランについて2番目の地位。トップも射程距離にある。

### ●強化について

ブラジルからサッポ氏を招聘した。ワールドカップには出ていないが、ジーコサッカースクー  
ルの関係で招聘した。熱心で分かりやすい指導が特徴的。技術的な部分でも刺激がある。

このように、ブラジルからテクニカルアドバイザーを招聘して代表チームの強化に努めること  
や、全国をまわってフットサルの普及活動を行うことに、JFAの存在価値を認める事ができる。

民間企業が海外から強化のために指導者を呼び、普及活動を行うことは採算が合わず難しい。  
登録費などがそういったことに使われ、フットサルの強化・普及にまわっているということに、  
協会のひとつの役割があるといえる。

### ●国内のフットサル状況

関東リーグ以前には、関東の強豪チームによって、「スーパーリーグ」が独自で存在していた。  
今は消滅して「関東リーグ」に移行した。関東リーグには、スーパーリーグの多くの強豪チーム  
が引き続き参加している。<sup>5)</sup>

「関東リーグ」「関西リーグ<sup>6)</sup>」が日本国内の最高峰のリーグ。さらに勝ち抜くと、「地域チャン  
ピオンズリーグ」が年に1回開催され、将来的には「日本リーグ」になっていく。

毎年2月には全日本選手権が開催されているが、「ファイルフォックス」「ロンドリーナ」「カス  
カヴェウ」など関東勢が優位。

関西においては、「マグ」に力が集中している。屋内施設が完備されていること、社員として働  
けることなどが要因。そのほかに、スポンサーの状況として、週に数回場所を確保、用具に関  
してはプーマがついているという状況。今年からニッポンハムが、サプリメントについてスポン  
サーを開始している。

働きながらフットサル選手をするというのが普通のスタイル。

関西リーグの中で、近鉄百貨店という名のチームがあるが、企業チームではない。試合のとき  
は休みをくれるなど協力はあるらしいが、特にフットサルのうまい選手を採用しているという状  
況ではない。

・関東リーグの「プレデター」については、中心人物がいて、組織化が進んでいるという状況。  
基本的に資本力は弱い、選手をカテゴライズして、成果報酬の体系をつくっている。スポンサー  
を獲得する試みや、大会の開催などによって財源を確保する自主運営のスタイル。

・フットサル選手は、プロか？アマチュアか？

・サッカーの基準に準ずる形だが、基本的にフットサル選手はアマチュア扱い。

・ブラジルリーグなどにおいても、それだけで飯を食っているというプロフェッショナルが存在  
している状況ではない。お金をもらいプロと言われているが、フルタイムでフットサルだけをし  
ているわけではない。プロの定義があいまい。

・ブラジルにサッカーで行く場合、プロということで就労ビザがとれるが、フットサルでは観光  
ビザしか取れず、長期滞在が難しくなる。サッカーとフットサルでは、扱いの差がある。

- ・連盟として、プロとアマチュアを分けて差をつけるという概念はない。
- ・200万人構想を掲げるJFAとしても、今後フットサルに関するプロ化や、移籍などの問題を検討し、整備していくことになる。
- ・トップリーグである「関東リーグ・関西リーグ」においても、選手は働きながらフットサルをしている状況にある。場所が確保され、ユニホームが支給されるという程度のメリットで、選手が集中するのがフットサルの現状といえる。

### ●民間大会の現状と登録制度について

民間の大会としては関西一の「ニッポンハムカップ<sup>7)</sup>」は、参加470チームで11クラス。今回で7回目の大会となる。ニッポンハムのスポンサーと産経新聞、FM802、ぴあの共催。他の民間大会として、Jリーグ関連や民間施設単位の大会も開催されている。

第1回目から協会登録の大会として開催している。今年6月の大会は、連盟に準じて「個人登録」をして開催したかったが、個人登録をチェックする体制が整わなかった為、従来どおりチーム登録のみとした（※個人登録には、1人千円かかる）。個人登録制度には、強化のための資金獲得や日本フットサルの状況を把握するという役割があるが、民間大会との連携を考えると難しい部分があるのでは。

### ●「関西フットサル施設交流会」と「日本フットサル施設連盟<sup>8)</sup>」について

「関西フットサル施設交流会」からスタートし、日本フットサル連盟やCHQとの話し合いの上、2003年4月1日に「日本フットサル施設連盟」が発足した。現在の加盟施設数は、東北7、関東16、関西36、東海14となっている。

施設数そのものは関東が圧倒的に多いが、加盟数では関西が多い。大会やHPの運営など実質的な活動を関西で行ってきたため、新しい施設ができた場合、関西では施設連盟に加盟する傾向がある。

レンタルシューズの料金やキャンセルの方法などに関する情報交換を目的に、関西フットサル施設交流会が発足した。民間施設から理事が7人選出されており、全体のミーティングも2ヶ月に一回あるなど、活発である。

日本フットサル施設連盟の目的は、協会と話し合いができる組織として、良い環境作りに貢献することにある。審判のレベルの格差や育成などに関して、協会との連携が期待されているがこちらはまだそれほど活発な活動ができていない状況。

- ・東京都の施設連絡協議会は、全日本フットサル選手権の予備予選のために発足したもので、日本フットサル施設連盟とは、今のところ無関係。

### ●関西の民間大会における「登録問題」

第6回関西フットサル施設選手権大会「Coppa PUMA」が9月に開催された。600チーム以上が参加し、関西一の規模を誇る。各施設で代表を決める予選を行い、決勝大会を行う。6回中2回は、決勝大会を協会登録し、審判の派遣などを協会が行ったが、去年今年は協会登録をしなかった。理由としては、協会から派遣されてくる審判より、施設側が抱えているアルバイトの審判の方が使いやすく動きが良いということと、チーム登録までは良いが、個人登録では手間がか

かることがあげられる。

協会登録はしていないが、この大会での「登録外選手」が決勝戦に出ていたことが、FCJAPAN 掲示板を中心に発覚した。<sup>1)</sup> 優勝取り消し処分となり、決勝戦をTV放映できないという残念な結果に終わった。民間の大会にとっても「登録」が重要なテーマとなっている。

## <ディスカッション>

### ●民間大会における「登録問題」について

- ・運営管理の観点から「登録制度」が重要であることを痛感した。
- ・協会の登録と大会の登録制度は、分けて考えるべき。この場合、嘘をついたことの方が問題。
- ・「協会登録の大会ではないので、そこまで厳密に調べるとは思わなかった」というのが、登録外選手の側の言い分であった。
- ・登録外選手の出場が、インターネットの掲示板で指摘されるのは、健全なあり方。
- ・協会の選手権であれば、登録証で厳密にチェックする事が可能であるが、協会登録でない民間大会で登録外選手が出たということでの優勝取り消しは、かなり厳しい処分だと思う。
- ・理事長が辞任するところまでいくと、遊びである大会としては行き過ぎではないかと感じる。
- ・大会の盛り上がりがすごいことが想像できるが、逆に、遊び感覚の人と競技感覚の人の温度差も存在するのだろう。
- ・商品が豪華であったわけではないが、大会の規模が大きくなるにつれ、関西地域で権威ある大会に成長してきた。スポンサーがつき、商品がつき大会が成長するなかで、競技性が高まり、本格的に競技として入ってくる人があらわれたのだと思う
- ・交流会としては、フットサルを、競技としてとらえているものの、遊びとして入ってきてほしいという部分もある。
- ・競技として捉えておきながら、遊びとして入って来てほしいというのは、矛盾している。遊びとして入ってくる利用者にとっては、主催者側の意図は関係ない。
- ・ニッポンハムカップ<sup>2)</sup>に関しては、大会登録を厳しくする姿勢を見せたところで、次に参加チームの増減はあるのか、興味がある。来年の大会を見てみないと何とも言えない。

### ●サッカー協会の登録制度と競技会のあり方

- ・地域協会にとって、登録者を増やしてもメリット（バックマージン）がない現在の制度は、見直す必要がある。
- ・200万人構想の中で、フットサルがどのくらいの割合を占めることを目指しているのか？また、フットサルの市場性をCHQとしてどのようにみているのか？
- ・現在フットサルの個人登録は8万人。サッカーの競技人口が一番多いときで、97万人から98万人いた。現在は80万人を切るところまで減っている。フットサルを入れなければ200万人はありえない。区・市サッカー協会、またはリーグレベルでは、サッカー協会に登録していない。その部分の競技人口を登録させ、フットサルを含め200万人を目指す。現状のフットサル登録者数は8万人。少年が6万人に対し、大人が4万人である。赤字であるため、都道府県に分配する金がない。日本協会は、当初6万人が大人で、4万人が子供と推測していた。民間リーグ・大会

に出場する選手が登録していない実情が、個人登録制度と、民間の大会、リーグが結びついていないことを示している。

- ・協会が、年一回の選手権の開催以外に、年間を通して大会を多く開催することで、現在のフットサルに集まる熱量を保てるとは思えない。なぜなら、現在のフットサルブームは、民間が施設をつくり、大会やリーグで盛り上げてきたという経過があるから。

- ・協会登録をする大会を増やし、個人登録制度で縛ることで、フットサルの次のマーケットが育つのかに疑問がある。

- ・民間の大会から、施設交流会のような間の大会、そして協会の大会と、様々な選択肢が用意されている状況が望ましいと思う。圧力的に選択肢をなくしてしまうのは問題だ。個人登録 200 万人を目指すということは、そのような危険をはらんでいるのではと不安になる。

- ・しかし、協会のオープンリーグに参加したいというチームもかなり増えてきている。

- ・競技性の高いリーグを志向するのは自然な流れだが、それらを取り巻く「遊び」の部分の受け皿にも十分配慮していかなければならない。

### ●ルールと審判に関して

- ・去年までのニッポンハムカップは協会主管の大会だったため、審判の厳しい姿勢に、民間（商売）の立場からとまどった。しかし逆に、審判がしっかりしている大会として定着する要因になった。そのような目的で、この大会に参加する人もいる。

- ・サッカーのルールには状況にあった許容の範囲がある。昔は選手のためのルールブックだったが、今は審判のためのルールブックに変化している。厳格さは必要だが、審判と選手の乖離が起こる場合がある。一番大事なのは怪我をしないことであり、勝敗が公平であること。あとは、大会主催者の意向が影響する。

- ・審判がない方が、お互いでうまくやるかもしれない。ゲームのための登録、コーディネートのための協会の必要性は変わらないが、多様なニーズに対応していくことは必要。

### ●登録制度の意義

- ・現状のフットサルは多様性に富んでいる。一方で組織化していく必要があると認めつつも、協会の 200 万人構想のように、すべてを集約しようとする動きに疑問がある。

- ・集約するという言い方が適切かどうか。「2050 年には 2000 万人だ」という話を先日もしたが、それは大会参加のための「登録」という意味ではなく、人口の 2 割が愛着をもつようなセクターがあれば、社会のパワーになるでしょという意味。そのような状況になったときに本当のサッカー文化の確立といえる。登録というよりも「メンバー」であり「会員」。

- ・全ての人が登録しなければならないということではない。民間との共存の中で、競技性の高い部分の受け皿を作るべき。

- ・組織化された上部構造が系統的にしっかりあって、イングランドのような強いチームができるのはわかるが、裾野の広さがあるのははじめて実現すること。

- ・登録を無料にしようという意見もある。なぜ金をとるのか。他国ではあまりないこと。

- ・ブラジルは、クラブからとって、選手登録を無料にする方法を採用している。

- ・お金を払って得られるメリットが分からない。

・サッカーに関しては、お金を払ってプレーしているという感覚がない。フットサルは違う。お金を払ってプレーしていた人たちにとって、登録料の対価が何かわからない。

・フットサルは、大会を開催するための協会の必要性が認識される以前から大会が存在していた。そのため協会の登録制度のあり方に関する答えは見えていない。お遊び大会と競技性の高い大会。調和した登録制度をいかに構築するかが課題だ。

・今の登録制度にのっとったとしても、弱い地域から全国大会に出場するような、アンフェアな方法が通用する。高校サッカー・高校野球ではすでにそういった状況。地域性と登録制度の間に矛盾が生じる。

・協会の目的とは、好きな人が集まって合意形成すること。普及していく中で合意を形成していくことは難しい。協会と民間の間に矛盾が生じるのでは。仲間を増やせば多様性が生まれ、違った考えを包摂できなくなる。

### ●FIFA傘下のフットサル

・FIFA という組織が落としどころだと思う。一つの国に一つの協会が徹底されおり、日本サッカー協会の中にフットサルが存在している。ルールの方では、FIFA を頂点とした階層構造の中にあるといえる。

・FIFA という象徴の部分と、実際にお金を払いプレーするという実体の部分は違う。200 万人構想の中で協会がやろうとしていることは、実体の部分を押さえようという試み。初心者にとって、必要なサッカー教室というサービスが、協会に公認されているかいないかは関係ない。

・しかし、ボクシングならWBA、WBCといろいろあるが、「サッカー」と言った場合、どのようなレベルであろうが、それは FIFA を頂点とする構造の中で一つ。それはすごいこと。

・FIFA や協会は大きな象徴であるが、実体である人々の行動を規定していない。協会が公認していなくても、フットサルには人は集まる。

・現状では草サッカーレベルの人にとって、協会の登録制度が納得のいくものではないということである。

### ●施設の公認について

・民間と公共をあわせフットサル施設は 280~300 近くある。人工芝などについて、日本フットサル連盟としては公認していく。

・公認施設を作る場合、協会が一部負担するなど、交渉の余地はあるのか？

・協会として金を出すことはありえない。

・施設の公認というのは難しい。事故が起きた場合の責任問題になる。

・兵庫で7ヶ所公認施設がある。メリットは協会の大会を開催できること。

・公共施設は開放に向かっている。民間と公共のバランスが崩れると、民間施設が成り立たなくなる。民間施設として、どのように差別化させていくかが課題。

### ●女子フットサルの状況

・東京では連盟が設立され、去年からプレ大会として8チームで都リーグを開催。今年度から正式に都リーグがスタートした。将来的には女子のオープンリーグをつくる予定。普及事業という

ことでは、女子のサッカーリーグ（東京都の女子加盟チーム 婦人・大学いれて 43 チーム）からも参加を募り、女子人口を定着させ、サッカーとフットサルを共存させていくスタイルを目指す。  
・ニッポンハムカップでは、女子 24 チームが集まる。リピーター率は高い。他のクラスは 10,000 円～15,000 円とっているが、女子は無料。

#### 【資料・詳細】

- 1) 平成 15 年 9 月 1 0 日付記事 サンケイスポーツ (配布資料 1)
  - 2) 「国際大会と日本代表」(配布資料 2)  
1 9 9 9 年第一回アジアフットサル選手権～2 0 0 1 年第三回大会まで 4 位。  
2 0 0 2 年第四回大会・2 0 0 3 年第五回大会 連続準優勝。
  - 3) アジア選手権 決勝 日本 4 - 6 イラン (配布資料 3)
  - 4) 「JFA フットサル テクニカルアドバイザー サッポ氏について」(配布資料 4)
  - 5) 「関東リーグの戦況について」(配布資料 5)
  - 6) 「関西リーグの戦況について」(配布資料 6)
  - 7) 「NIPPONHAM CUP について」(配布資料 7)
- 特別協賛：ニッポンハム 主催：ニッポンハムカップ関西フットサルトーナメント実行委員会  
協力：大阪サッカー協会フットサル委員会 兵庫サッカー協会フットサル委員会  
京都府サッカー協会フットサル委員会
- 8) 「日本フットサル施設連盟について」(配布資料 8) <http://www.fcjapan.co.jp/japan/>
  - 9) 「第 6 回関西フットサル施設選手権大会 Coppa PUMA について」(配布資料 9)  
※ 今年より、メインスポンサーにプーマがついた。
  - 1 0) 「関西フットサル選手権大会決勝における登録外選手の出場に関する対応」(配布資料 1 0)